



準備体操で体をほぐしてから、切り返しの練習が始まる



「ドオー」気合いの入ったけいこが続けられる



撮りまくった写真の山を前にして、渡航の思い出を語る遠藤さん



船上ではフィジー人による歓迎の儀式



「青年の船」のリーダーとしてオセアニア各国を 歴訪、体験を生かした地域活動に情熱を燃やす

総理府主催の青年の船（村山雅美団長・団員三百二十一人）は、一月二十九日から五十二日間、オーストラリア、ニュージーランドなど四か国を歴訪、各国の青年たちと交流を深めてきた。各国とも温かく迎えてくれ、二か国での民泊も楽しかった。途中から三か国の青年たちも乗船し、

行動を共にする。「貴重な体験の数々でした。長期間の休暇をとっての参加はなかなか難しいと思います。でも、ぜひ外国をじかに観て、視野を広めて欲しいですね。休暇をとってまでも参加する価値は十分にあります」と強調する。遠藤 徹さんは、十年前にも青年の船の団員として参加。今回は班長に選ばれ、第二十八班、十二人のリーダーとして活躍した。「先回の渡航と違い、班長としての責務は重く、いい体験をしました。」

でも、十年前とは青年の考え方もずいぶん変わっていて驚きました。団員と意見が対立したこともありましたが」と語る。大郷梨の生産に意欲を燃やし、家庭に帰れば一児の父親でもある。「この青年海外派遣事業に参加した団員からはその体験を青少年活動に生かして欲しいものですね」と話す遠藤さんは今、市青少年育成指導員や大郷青年学級主事、それに市レクリエーション協会の副会長として活躍中である。



民泊したサリバン家の皆さんと（ニュージーランド）



第二十八班のメンバーとともに（にっぽん丸船上）

剣道で心と体を鍛える

小林少年剣士会

剣道を通して、健やかなたくましい子を育てようと、七年前に結成された小林少年剣士会。二十八人の豆剣士たちは、水藻謙治さんの指導のもと元気いっぱい練習に励んでいます。

「気の小さい子供が多かったのですが、剣道をはじめてからかなり積極性が出てきましたね」と藤宮平一会長は話してくれました。交流試合や各大会への参加、夏季合宿などで心と体を鍛えています。昨年の十一月に行われた市民柔剣道大会では、団体戦で二位、個人戦でも小学四年以下の部で柳通 登くんが優勝、同五年以上の部で長谷川雄大くんが二位になるなど大活躍しました。

「剣道をはじめてから、体が丈夫になりました。それに、勉強の時間とテレビを見る時間のけじめをつけられるようになりました」と、六年生の国原一貴くん。

「かなり厳しい練習もしますが、負けずによくがんばっています。剣道を通して礼儀正しい人、約束を守る人になってほしいですね」と水藻さんは話しています。

練習は毎週月・水曜日の午後三時から、小林小学校で行っています。現在、指導者を求めているとのこと。連絡先は藤宮平一さん（平潟・☎四三三二）へ。



会員の声



柳通 登くん
(小林小・5年生)

剣道をはじめて三年になります。市内大会の個人戦で優勝したことが、一番の思い出です。お母さんから「がんばったね」といわれたときは、とてもうれしかったです。練習は厳しいけど、それで強くなったんだと思います。これからも、日本一の剣士をめざしてがんばります。